

# 着 mono 通信

yoroduya

2022・7 vol.46



原町本店  
〒975-0003  
南相馬市原町区栄町2-83  
TEL:0244-24-2929

いわき店  
〒970-8026  
いわき市平三倉69-8 第2地産ビル1F  
TEL:0246-85-5298

みなさまこんにちは！7月になりました。2022年も半年が過ぎ暑い夏がまたやってきてしまいました。さて、夏は暑くて着物は着ないという声を良く耳にしますが、夏キモノこそ着物好きにはたまらない商品がたくさんあるのです！！着物は洋服のように夏だからと言って、デザインや形が変わるわけではありません。袖も付いてるし、帯も締めるし、形状は全く変わりません。そこで、何が変わるかというと、素材なんです。夏は、絹・紗・麻などのほか、夏紬・洗えるポリエステルなどがあります。どれも透け感があり見た目が涼やかです。夏帯に至っては、絹・紗・麻のほか八寸帯で羅・絹つづれ・紗献上など素材の種類が豊富です。見た目もですが、着物はほとんどが天然素材なので体にもやさしく、体感温度も下げてくれます。汗ジミが心配な方や、少しでも涼しく着たい！という方はぜひ当店で取り扱い中の「たかはしきもの工房」の肌着をお試してください！7月14日(木)から3日間、原町本店にてフィッティング会を開催します！これまで夏は着なかった方も、夏キモノデビューしてみませんか？

予告！

## ＜ゑびす足袋 本舗 足袋のお見立て会開催＞

いわき店  
8月4日～6日  
原町本店  
9月8日～10日

雑誌や着物イベントで大人気の「ゑびす足袋本舗」の足袋のお見立て会を開催します。福島県では初の開催となるお見立て会です！この機会に自分にピッタリの足袋を見つけて足美人になりませんか？人気の「こたび®」もお見立てします！期間中は予約優先で開催しますので、お早目のご予約を！！



2019年グッドデザイン賞受賞

人気商品「こたび®」は花緒ズレ、足裏の汗、浮腫みなどのほか、足のアーチがなくなり開帳足・外反母趾・足裏のタコ・浮き指の為にアーチコルセットとして開発されました。「こたび®」を靴下の中に日常的に履くことにより、体のお悩みが改善されたとの声も！足から全身を健康な状態に戻してみませんか？若女将も半年以上履き続け、外反母趾の痛みが軽減されてます！！



左：ゑびす足袋  
右：一般的な足袋



一人ひとり足合わせをして、ピッタリの足袋をお選びいたします。目指せ足美人！

## ～KICCA パーソナルカラー診断～

一般社団法人きものカラーコーディネーター協会(KICCA)のパーソナルカラーアナリストによるパーソナルカラー診断を開催します。パーソナルカラーとは、持って生まれたボディーカラー(肌の色、瞳の色、髪の色など)を元に個人(Personal)に似合う色(Color)を診断する手法です。パーソナルカラーをきものに取り入れることで、きものコーディネート幅を広げてみませんか？



＜いわき店＞ 日時：7月28日(木)、29日(金)

10:30～15:30

受付：7月7日(木)～

＜原町本店＞ 日時：8月9日(火)、10日(水)

10:30～15:30

受付：7月14日(木)～

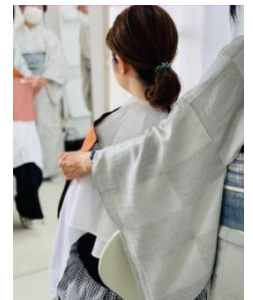
※ご来店の方のみ受付いたします。お電話での申し込みは受付しておりませんのでご了承ください。

定員：各日 4名様まで(お一人50分程度)

診断料：2,000円(税込)

※診断時は、お化粧は薄めに口紅は落としていただきます。

カラーコンタクトレンズなどの使用はひかえてください。



# < よろづ屋 きものがたり～久米島紬～ >

全国の紬や染めの産地のお話や、きものにまつわるあれこれをご紹介しますコーナー  
第19回目は、全国の紬の原点となる久米島紬



久米島紬(くめじまつむぎ)は沖縄県久米島町で作られている織物です。素朴でしなやかな風合いと独特の深い色調が特徴です。久米島紬の制作は、図案の選定、染色の原料の採取、糸の染め付け(そめつけ)、製織(せいしょく)のすべての工程を1人の織子(おりこ)が手作業で行います。使用する糸は、紬糸(つむぎいと)か引き糸のいずれかで、

紬の最高級品!  
久米島紬



島内に自生している植物を使った「草木染め(くさきぞめ)」や「泥染め(どろぞめ)」という手法で染め付けます。紬糸とは、繭(まゆ)から生糸(きいと)を作る際に使用できない屑繭(くずまゆ)を真綿(繭を綿のような状態に引き伸ばしたもの)の状態にして、撚り(より)をかけて手紡ぎ(てつむぎ)した糸のことで、引き糸とは、繭から生糸を手で引き出したものです。天然染料を使うことで、織り上がった久米島紬は、洗うたびに染料の灰汁(あく)が抜けていき、色が冴えてますます美しい色合いになっていきます。また、緋模様(かすりもよう)に織り上げるために糸に色を付ける部分と付けない部分を細かく染め分けなければなりません。色を付けない部分には、事前に木綿の糸を巻き付ける「緋くり(かすりくり)」という工程を行います。非常に繊細で根気のいる作業で、一般的な紬や緋は機械を使用して「くり」を行う場合が多いですが、久米島紬の場合は、「緋くり」の工程もすべて手作業で行います。



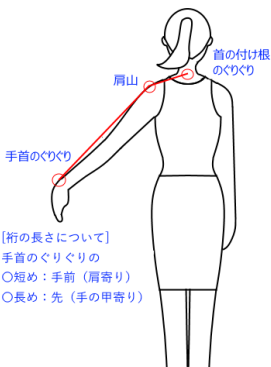
久米島紬の起こりは、15世紀の後半に堂之比屋と呼ばれる人物が、中国から養蚕産業を学びこれを広めたことから始まったと言われています。日本の紬緋技法は久米島を起点に発達し、沖縄本島、奄美大島を経て本土に伝えられ、大島紬、久留米緋、結城紬などのもととなり、日本全国に伝播されていきました。久米島紬が紬の発祥の地とも言われる所以です。

## 知っておきたい寸法のこと

せっかくのお誂えの着物、みなさんご自分の寸法はご存知ですか? 仕立てる際や購入時の参考に、寸法のことをもっと知りましょう。

### ～その3 衿～

今回は衿についてです。ほとんどの方が衿の長さについて気にされるほど、着物を着る上でとても大切な寸法の一つです。衿はきものの背縫いの最上部から肩山を通り、袖口までの寸法で肩幅と袖幅を足した寸法です。衿の測り方は、首の後ろの付け根の頸椎から、肩山を通り手首のぐりぐりまで測ります。衿の長さも個人の好みもありますが、紬などの普段着は、あまり衿を長くしない方が活動的に見えます。反対に、訪問着などは少し長めの方がエレガントに見えます。着物の素材によっても、同じ寸法でも衿の長さが違って感じる場合もあります。やわらか物などは、生地が下がってくるので少し長くなります。おおよそ±3cmくらいなら普通に着られる可能性があります。また、衿の長さは比較的簡単にお直しもできます。その時に、縫込みがどのくらいあるのかなども決めてになりますので、お気軽にご相談ください。



今月のおススメ!

あふ 帯揚げ  
8,800円(税込)

今回のおススメ商品は、「あふ」のオリジナル帯揚げです。「あふ」は一般社団法人きものカラーコーディネーター(KICCA)の代表理事を務める能口祥子氏が総合プロデュースするオリジナルブランドです。色彩のプロが色を選別し、納得のいくまで染め出した商品です。しかもこの帯揚げの素材が特殊なので、年間通して使用することができます。少しだけ透け感とシャリ感があるので、夏物としても袷の季節でも大活躍の優れものです。

濃い色も人気ですが、これからの季節にピッタリな色味を選びました。色彩のプロが選んだ帯揚げは、いつものコーディネートをワンランクアップさせること間違いなしです。帯揚げは、目立たないようでも着物の名脇役です。自分色をつけて垢抜けコーデを完成させましょう。コーディネートのご相談も承りますので、合わせたいお着物や帯をご持参ください。

写真下より、薄苺安・薄柑子(うすこうじ)・生成色・梅桜・サーモンピンク・薄藤色・藤紫・薄浅葱・白緑(びやくろく)・白群(びやくぐん)

### ・・・若女将のつづやき・・・

私の第2のお仕事として、5月29日に4年ぶりとなる「第13回小林音楽教室ピアノ発表会」を開催いたしました。教室を始めてから2年ごとに開催していたので、コロナがなければ2020年に開催していたはずなのですが、延び延びになりなんとか開催することができました。現役の音大生の教え子と次女の素晴らしい演奏が会に華を添えてくれたのが何よりでした。もう、先生出番なくていいのでは?!とは思いましたが、私もお手本となる演奏にはならないにせよ、一緒に頑張った姿を見せることで何か伝わったと信じてまた精進します!ドレスが入って良かった～(^^)

